編集
報道委員会委員長
瀧元　智恵

第 201 号
2023 年
8 月

JAUW　SAPPORO

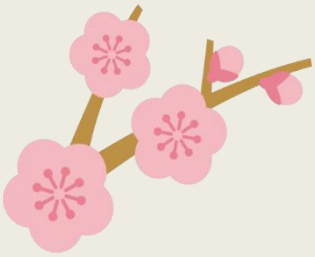
発行
(一社)大学女性協会
札幌支部
支部長　朝日　幸世

二〇二三年度(一社)大学女性協会札幌支部総会

去る四月二十六日(水曜)、札幌エルプラザに於いて、3年ぶりとなる対面での札幌支部総会が行われました。(対面の出席者8名、メールでの議案書承認者5名、メール委任1名、欠席者1名)。

出口議長のもと粛々と審議が進められ、第一号議案(2022年度事業報告・収支決算報告および監査報告)、第二号議案(2023年度事業計画案・予算案)、第三号議案(役員改選)、第四号議案(ミニ・ニュースの送信方法、会員証の会計保管について)いずれも承認を得ました。

ミニ・ニュース送信方法については事前の回答で希望を確認しており、データ送信希望者にはデータで、郵送希望者には今まで通り郵送でお届けする。また会員証については経費と手間の削減のため、郵送希望者を除いては会計がまとめて預かるという形に変わることが決まりました。次いで議長を出口支部長から朝日新支部長に交代し回答書〈3〉について皆さまからのご意見を伺いました。例会については、ZOOMの方が札幌から遠い方でも参加しやすいという意見がありました。自然・文化・歴史を訪ねる会についてはエスコンフィールドの見学、美術館の展覧会鑑賞、札幌市内の産業遺産巡りなど活発な提案があがりました。また、国際委員会には海外居住者(日本人)に現地情報を伺ってみたいという意見がありました。



その他、今後の札幌支部の存続を図るためにも会員を増やすことが課題ではないかという意見に、文化的な例会に友人を誘うといった提案がありました。

俳句同好会からは新たに句集「草の花」が発行され、同好会会員以外の支部会員から、1冊千円で購入したいとの提案がありました。

なお、会員名簿について、役員間ではすでに情報の共有が済んでいることもあり、今後は個人情報の漏洩防止のために名簿は作らないことが決まりました。また入院や移転などで連絡がつかなくなる場合を想定して、現在、固定電話を登録されている方で、携帯電話をお持ちの方には、携帯番号の登録をお願いすることになりました。総会はコロナで3年にわたり対面が叶わず、久しぶりに再開できた喜びが会場に満ち溢れていました。新しい年度に新しい出会い、学びがあることを楽しみにしております。

(押谷君予)

新支部長あいさつ

朝日　幸世

私は、入会（１９９７年）以来、例会等にはあまり出席できず、ミニ・ニュースやホームページを作っていただけの会員でした。しかし、そうする中でも会の皆様と多くの交流がありました。

札幌支部のみなさまは、初めてお話する方でも、ずうっと前からの知り合いだったような感じがして、話しやすく、親切で優しく、明晰で行動力もある素敵な方々ばかりです。そして、一年間かけて取り組んだ「支部の未来検討会」が、支部長をお引き受けする上で、私の心の支えとなりました。皆で話し合って進んでいける札幌支部なのです。

歴史ある札幌支部をここまで導いてくださった歴代支部長のみなさま、そして大変な時期を乗り切ってくださった出口好子前支部長には心より感謝申し上げます。

これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

第1回例会
JR苗穂地区北海道遺産を訪ねる会

去る6月5日3年ぶりの対面例会が実現しました。研修・文化委員長の押谷さんによる企画により参加者（会員7名、会員外4名）が集まり、賑やかで楽しい例会となりました。

河川、貨物輸送の利便性の高い苗穂地区は、明治期より多くの工場や倉庫が造られました。今回の例会では、その中から福山醸造とサッポロビール博物館を見学しました。

福山醸造では、最初にビデオを見ながら福山醸造の歴史や醤油造りについてレクチャーがありました。

その後、資料室を見学し、初期の頃に使用していた道具や写真を拝見し、大正時代の醸造のイメージを膨らませました。そして、いよいよ工場内の見学となりました。大豆・小麦が熟成する過程はもちろんのこと、諸味がしぼられ濾過されて醤油として落ちていく過程は、目でとらえることができないほどゆっくりで、『醸す』とは、ほんとうにゆったりとした時の流れが必要とされるのだと驚き、レトロなレンガ造りの工場内は令和の時間軸とは異なる時間軸が流れているようでした。直売所では味噌、醤油などのお買い物で盛り上がりました。

札幌ビール博物館では自由見学のあと、館内ホールで出来立てのビールなどを飲み、おしゃべりをして過ごしました。個人ではなかなか難しい工場見学を取り入れた企画で、下見などご尽力を頂いた押谷さんに感謝申し上げます。

充実しています！　Ｊカフェ

JAUW 生涯学習委員会主催のＪカフェは「JAUW が誇る最大のタカラは、会員のもてるチカラです。」このキャッチフレーズが付き、会員が講師になることが多いですが７月８日、〈ゲスト編〉～JAUW ヒューマンリソース活用プログラム～として大学院生が発表しました。

「ポストコロナの障害者就労とキャリア教育」

～まなキキ・フォスタープランとオンライン社会科見学の実践から～

濱松　若葉　氏

Learning Crisis 研究会　学びの危機プロジェクト

（まなキキ・プロジェクト）社会科チーフ/広報連携担当

津田塾大学大学院国際関係学研究科　後期博士課程

濱松若葉さん（2022 年度国内奨学生）は、2020 年４月新型コロナ感染が拡大し始めた直後に、津田塾大学内に「Learning Crisis 研究会」を立ち上げ、障害のある子どもたちに、オンラインで「学びの応援」を届けるシステムを創り出しました。大学・地域・社会がつながって障害のある子どもたちに学びを取り戻していくプログラムとその実践について。資料等はとても丁寧でした。

次回　第 15 回Ｊカフェ（チラシが届いていると思います）。

９月９日（土）　14:00～16:00

「ポストコロナ時代の国際教育」～今大学に何が求められているのか～

富田　敬子氏（常磐大学・常磐短期大学　学長）

講座案内

俳句同好会（毎月一回）第二土曜日

午前十時～十二時　　係　川岸雅子

陽美保子先生（俳句結社「泉」編集長、俳人協会幹事、俳人協会北海道支部理事、「俳壇賞」、「北海道俳人協会賞」受賞）にご指導いただき、楽しく俳句を学んでいます。初心者歓迎いたします。

ミニ・ニュース特集

なぜ、戦争は止められないの？
戦争ってどうしたら止められるのだろう？
ミニ・ニュース201号では、2022年度の例会に引き続き、ウクライナ情勢探求特集を組んでみました。知れば知るだけ複雑なウクライナ情勢を理解する手立てとなるお薦め本、映画、ドラマなど会員、そして例会の講師を務めていただいたロシア語翻訳家の東郷さんから集めた情報を紹介していきます。

ロシア側の視点やロジックを勉強するきっかけにするのならと東郷さんにご紹介いただいた書籍**『プーチンと G8 の終焉』（岩波新書、佐藤親賢著）**
現在、共同通信モスクワ支局長を務めている佐藤親賢さんが書いたもので、ロシアとウクライナの関係を学ぶ入門書には最適です。2016 年に出版されたのでクリミア編入までの話ですが、客観的な歴史的経緯とロシア側のロジックに触れることができます。

ウクライナ側の視点として瀧元からのお薦めは、**『ウクライナ通貨誕生』（岩波現代文庫、西谷公明著）**
1991 年、ソ連からの独立を宣言したウクライナは市場経済へと手探りで漕ぎ出す。自国通貨創造の現場に身を置いた日本人エコノミストによるウクライナという国づくりの記録です。

これから読みたい本リストアップ

『独ソ戦』（岩波新書、大木毅著）2020 年に新書大賞受賞、話題の書
『現代ロシアの軍事戦略』（筑摩書房、小泉悠著）コメンテーターとして現在ひっぱりだこの小泉さんの著作

お薦め TV ニュース!!

ニュース番組の中から選んだのはもちろん『日テレ NEWS』。モスクワ関係のニュースで東郷特派員が登場すると、「東郷さん、お元気だあ」と嬉しくなります。YouTube でも観れます。

お薦め YouTube!!

玉石混交の YouTube 番組は、主義主張に偏りが強いのですが、その中でも元NHK特派員が世界の話題を集めている『石川雅一のシュタインバッハ大学』はユーモラスな語り口で面白いです。

お薦め映画・TV ドラマ

1．『ウクライナ・オン・ファイアー』（東郷さんよりご紹介）

1 時間半程度ですが字幕を追うだけでかなりの集中力を要し、内容も重いのでどっと疲れます。でもまずはニュートラルな気持ちで、必ず最後まで見ていただきたい映画です。
映画ではロシア側目線で見たオレンジ革命やマイダン革命のメカニズムにも触れています。これを見ると、ウクライナはどんな歴史を経てきたのか、そしてなぜロシアではマスコミを統制したり、外国から資金援助を受けている団体に圧力を掛けたりしようとするのか、その理由の一端を知ることができるかもしれません。
現在 YouTube で日本語字幕付きも観ることができます。

2．『戦争と平和』（野嵜会員からのご紹介）

7 年たった今でも、忘れられない海外テレビドラマのシーンがある。食べものに塩をふるとき(塩は控えめだけれど)必ず思い出す。

トルストイの小説「戦争と平和」を原作として、イギリス・BBC 放送が 2016 年にテレビ用の連続ドラマを制作し、NHK がそれを放映した。エカテリーナ宮殿やエルミタージュでの華やかな舞踏会の撮影は、ロシアの許可を得て行われたという。

ご存じの方も多いと思うが、舞台は 19 世紀初頭のロシア貴族社会。興隆する貴族があれば、没落する貴族も。そこへナポレオンのロシア遠征(=侵略)が追い打ちをかけ、この時代を生きる貴族たち、とりわけ若者たちを苦悩と葛藤へ追い込む。そんな彼らの群像劇であり、混とんたる貴族社会と戦争の時代から、貧しくとも日々汗して働くことの幸せを考えさせるドラマである（ちなみに、原作は読んでいないけれど、ドラマはそういうテーマだったと思う・・・）。

このドラマの見どころの一つは、もちろんフランス文化にインスパイアされた絢爛たる貴族社会。半世紀以上前（なんと！）、ヘップバーンが演じた社交界のデビュタントは、”ダウントン・アビー”で奔放な侯爵令嬢を演じたリリー・ジェイムズ。チャーミングな彼女が、恋して、傷つき・・という役どころは乙女心ならぬおばさん心を痛めさせる。しかし、それ以上に心に刺さったのは、見目には自信がないけれど、突然、伯爵のタイトルを譲り受けた若者が、生きること、愛すること、正義を貫くことに悩み、葛藤する過程だ。彼は、この苦悩から抜け出すために、”戦場を視察"するという暴挙に出る（どう考えてもありえない！私が親なら、縛り付けても止めるけど）。兵士でもないのに、不運にも敵国の捕虜となった。死と隣り合わせで、食べ物もない寒さ厳しい収容所は耐え難い。そのとき、ある農民兵の捕虜が、隠し持っていたじゃがいもを一つ分けてくれる。空腹のあまり勢い込んで食べようとする彼に農民兵は言う。慌てるな。農民兵はポケットから小さな紙包みを出す。中には少しばかりの塩。それを、親指と人差し指でていねいに振り、一口ずつ食べる。伯爵は真似をする。

幸運にも捕虜から解放されて屋敷に戻れた(ドラマだから、いいところで助かる・・)。使用人が彼のために山のようなご馳走を出す。ガツガツと食べ始めた時、彼はふとフォークを止める(手づかみだったかな？)。こういう食べ方ではない。そして気づくのだ。大切なものは何なのか（そこまでせんでも気づけよ、と突っ込みたくなるけれど、若者はそんなものなのかな・・）。

いつの時代でも戦争は不条理で、そして穏やかな普通であることが平和だと、結論づけてしまえば簡単だ。だが今思えば、平和な時代だったからこそ、かの国をロケ地として、戦争と平和をテーマにしたテレビドラマが作成できたのだ（学ばないんかな、かの国は、とおばさんは独り言つ・・）。

3．『世界が引き裂かれる時』（瀧元会員より）

数あるウクライナ映画の中からお勧めしたい映画は『世界が引き裂かれる時』です。カメラワークが秀逸で映像作品としての完成度がとても高いです。2014 年マレーシア航空 17 便撃墜事件を題材に、ドネツク州の村のある夫婦が親ロシア派、反ロシア派の対立に巻き込まれていく様子が描かれています。息を潜めた静かな佇まいに、私たちは耳を傾けないといけないのではと感じました。